

いくつかの数量があるとき、それらをグループ化してまとめて考えると都合がよい場合があります。

【例1】自動車に乗っている人の年齢構成

助手席	運転席
後部①	後部②

 \rightarrow

$$\begin{pmatrix} 43 & 48 \\ 17 & 14 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 53 & 18 \\ 19 & 18 \end{pmatrix}$$

自動車 A 自動車 B

自動車 A は 4 人家族でドライブ中、自動車 B は自動車教習所での検定試験中といったところでしょうか。

【例2】各地の気温

札幌	仙台	新潟
東京	長野	名古屋
大阪	広島	松山
福岡	鹿児島	那覇

 \rightarrow

$$\begin{pmatrix} -8 & -2 & -3 \\ 1 & -4 & 3 \\ 5 & 7 & 6 \\ 5 & 10 & 16 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 13 & 17 & 18 \\ 23 & 19 & 25 \\ 24 & 21 & 22 \\ 26 & 29 & 30 \end{pmatrix}$$

2月10日 6月20日

地点の気温をこのようにひとかたまりで整理しておけば、気象分析なども効率よく行えそうですね。

いくつかの数をひとまとめにし、「ひとつの数量」と考えると、データの処理がしやすいことがあります。一般に上の例のように数を並べて、長方形に配列したものを**行列**といい、並べられたそれぞれの数のことを、その行列の**成分**といいます。行列は A, B, C のように、アルファベットの大文字で表します。

行列の成分で、横の並びのことを**行**、縦の並びのことを**列**といいます。例えば次の行列では、次のように行、列に番号をつけて呼びます。

$$A = \begin{pmatrix} 5 & -1 & 11 \\ -3 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

第1列 第2列 第3列
↓ ↓ ↓
← 第1行
← 第2行

行列

※「行は横、列は縦」と覚えよう

行の数が m 、列の数が n である行列を $m \times n$ 行列、または m 行 n 列の行列といいます。すぐ上の行列は 2×3 行列ということになります。

行と列の数が同じ、つまり $m = n$ の場合、この行列は n 次の**正方行列**であるといいます。

例題

- (1) $\begin{pmatrix} 2 & 0 \\ -1 & 5 \end{pmatrix}$ は 2×2 行列 (2 次の正方行列)
- (2) $\begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \\ 5 & 6 \end{pmatrix}$ は 3×2 行列
- (3) $\begin{pmatrix} 2 & 0 & 2 & -3 \\ -1 & 1 & 0 & 4 \\ 0 & 5 & 2 & 1 \end{pmatrix}$ は 3×4 行列

2つの行列 A と B が

① どちらも $m \times n$ 行列で

② 対応する成分がすべて等しいとき、

行列 A と B は**等しい**といい、 $A = B$ と書く。

例題

$\begin{pmatrix} a+1 & 2 \\ 3 & b \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 & p \\ 2q-1 & 0 \end{pmatrix}$ が成り立つとき、定数 a, b, p, q の値を求めよ。

4つの成分のそれぞれがすべて等しくなればよいので、

$$a+1=0, \quad 2=p, \quad 3=2q-1, \quad b=0$$

よって、 $a=-1, b=0, p=2, q=4$

$m \times n$ 行列 A において、第 i 行、第 j 列の成分を **(i, j) 成分** という。

例題

行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 4 & 5 & 6 \\ 7 & 8 & 9 \end{pmatrix}$ において

$(2, 1)$ 成分は 4, $(3, 2)$ 成分は 8, $(1, 3)$ 成分は 3